

改革元年(平成 22 年度)を振り返って



学校法人 神奈川歯科大学 理事長
鹿島 勇

学校法人の経営状態は、私学事業団および文部科学省により指定された経営判断指標を基準として判定される。

正常な経営状態とは、教育研究活動によるキャッシュフロー

じて黒字化することができた。この棚牡丹ともいえる帰属収支差額の黒字化は、平成 20 年度ゼロ査定されていた医療ファンドの回収成功に起因している。つまり病院や研究棟建て替え等のために備蓄されていた預金の一部を回収し、平成 22 年度決算に組み入れたにすぎない。あくまでも自力再生とは、一時的な資産回収やファンド解約金等の単年度に限った収入を除いて消費収支バランスを取ることである。従って、平成 22 年度の帰属収支差額の黒字は本学の純粋な意味での実力と言うことにはならない。

しかしながら、次々に生じる諸々の問題を抱えながら、わずか一年足らずでのこの驚異的回復は、100 年の歴史の重みを感じている

(CF) が黒字であり、かつ外部負債も 10 年以内で返済が可能な状態であり、更に帰属収入から消費支出を控除した帰属収支差額もプラスであること、と定義されている。しかも、これらの条件を 3 年のうち 2 年間クリアしていなければならない。

■正常な経営への努力

本学は、従来より外部負債はない。しかし、教育研究 CF については過去 10 年来黒字になったことはない。また、帰属収支差額も教育研究 CF と連動して毎年 10 億円近いマイナス計上

教職員個々の力の結集した総合力の賜物に他ならない。教職員の皆様によってもたらされたこの勝利は、本学を最高位の経営判断指標である A 評価へと限りなく近づけたのである。本学は、確実に再生から創造への新しき旅立ちへと進化を遂げている。

■努力の過程で

その勝利の端光が見えてきたにも関わらず残念に思うことがある。

今回の東北大震災において、チェーンメールによる根拠のない風評被害が社会的問題としてクローズアップされた。それは、震災による石油コンビナート火災で、毒性の強い“黒い雨”が降ってくるというものである。“黒い雨”とは、広島原爆投下後

を続けてきた。私立歯科大学の平成 21 年度消費収支決算報告書において、マイナス計上しているのは、本学と他の 1 校のみである。しかもその 1 校は、国からの補助金交付を自ら断っている法人である。補助金交付を受けている本学とは質的に異なる。

そこで、平成 21 年度の不幸事を機に、長年に渡って先延ばしされてきたこの問題を解決すべく 3 ヶ年計画を立案した。その計画のもと、平成 22 年度より大学の自力再生を目指し、経営健全化に取り組んできた。

自力再生へのシナリオは、フェイズⅠとして教育・研究キャッシュフローの黒字化、フェイズⅡとして帰属収支差額の黒字化、そしてフェイズⅢは、学

校法人としての永続性担保のための最終調整の 3 ヶ年計画である。

まず、本学の平成 21 年度までにおける経営判断指標に基づいた B2 評価からの脱却を目標に、対症療法ともいえる種々の戦略を立案実行することにした。

それらは、学生の確保、コスト意識の徹底、医療収入増加の促進、兼職の制限、管理職手当の一時支給停止、予算執行の 10% 停止、不採算部門の整理、早期退職の勧奨、冬季賞与支給停止等である。

■驚異的な立直し

その結果、10 年来成し得なかった教育研究 CF の黒字化を達成し、さらに帰属収支差額もかつて

に降った放射能を含んだ雨のことである。それが人体に悪影響を及ぼすことは、一般の人も大方周知であろう。今回の“黒い雨”は、福島原発事故による放射性物質の飛散と黒煙を上げて燃える石油コンビナート火災とが重複した結果の産物と考えられる。この根拠のない情報が次々とメールされ、不特定多数の人々を不安に陥れた。その後、情報源が石油コンビナートや原発関連会社に勤務している人達からであるということが付帯された。それは、その偽情報をいつの間にか真実化させ、さらに広がっていった。

この現象をある時期の本学に当て嵌めてみることにする。本学がファンドの不正投資によ

て巨額の損失を出し、経営破綻を来たして倒産する、身売りする、横浜センター等の財産を売却している、子女を入学させても卒業までもたない等の風評被害が一時期蔓延した。この根拠のない情報が口伝えで広まり、多くの関係者の方々から問合せを受けた。その内、その情報源が大学勤務者や同窓会関係者であるという事が付帯されることによって問い合わせも断定的な口調へと変化していった。以上 2 つの風評被害の出発点は、メールか口伝えかの違いであり、蔓延していったプロセスは同じである。個人的、政治的思惑は別として、同窓生を始め御父兄および大学関係者の方々の方々の良識ある言動を期待するものである。

平成 23 年度入学式



神奈川歯科大学入学生



湘南短期大学入学式で
鹿島理事長の挨拶

晴天に恵まれた去る4月5日、神奈川歯科大学と湘南短期大学の平成 23 年度入学式が挙行されました。

計画停電や余震などの影響を考慮して略式での式典となりましたが、多数のご父母も列席され、満開に近づいた学内の桜並木が象徴するような新たな胎動に向けて、期待の膨らむ1日となりました。

■青松学院からの祝辞

祝辞

神奈川歯科大学へのご入学、心よりおめでとうございます。

様々なご苦労もあったと思います。歯科大学入学という夢を叶えた皆さんを、心より誇りに思います。

一方、予想すら出来なかった自然災害によりショックと混乱も味わったことでしょう。大変お気の毒に思います。

ですが、やはり「始まり」という言葉は希望あふれる言葉です。そこで私は皆さんの出発点にあたり、一言申し上げたいこ

とがあります。

私も若い頃、皆さんと同じく色々な精神的な混乱と苦労を味わいながら、彷徨った時がありました。そんな私を慰め、勇気付けたのは山でした。

山が我々に与える意味は人生と同じだと思えます。

人が処する状況により人生は人それぞれ違うように感じ、山もそれぞれ違う意味を与えてくれるのです。

登りやすい道があれば、登りづらい道もあります。

辛くても苦しくても、気を取り直して頑張って向き合えば、山は無限のパワーを我々に与えてくれ、山を登る時の辛い瞬間を乗り越えればきっと新しい希望が溢れるはずです。

人々は山に登る時、様々なことを思います。

辛いことを忘れるために山に登る

人もいれば、幸せ・愛のような楽しみを感じるために登る人もいます。

山は各自の夢と挫折などが共存している場なので、山はこの全てをそのまま受け止めてくれます。

人の性格がそれぞれ違うのと同じく、山もヒマラヤのように大きな山から、村の裏山まで色々あります。

その山が持つ意味はそれぞれ違うだろうけど、いつも抱いてくれるという共通点を持っています。

私は、皆さんがこの山のような人間になって欲しいと思います。

自分なりの夢と希望を追って正解を探すよりは、様々な価値をもつ人間として生きて行って欲しいのです。

これから世界で活躍する立派な高嶺になっていく皆さんの未来に、心よりお祝いの言葉を申し上げます。

ETOOS AE (青松学院)

代表 金亨中

新就任の挨拶

湘南短期大学の精神は「愛」



湘南短期大学 学長
(神奈川歯科大学学長 兼任)
佐藤 貞雄

このたび、塚本秀人前学長の後任として湘南短期大学の学長に就任いたしました佐藤貞雄です。3月11日の東日本大震災によって被災された皆様、さらに福島第1原発事故による放射能汚染によって避難生活を送っておられる皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早

い復興をお祈りいたします。

■愛について

湘南短期大学の学長に就任してまず、本学の建学の精神に謳っている「愛」とは何かということについて考えさせられました。通り一遍の挨拶文は抜きにしてここでは「愛」について考えてみます。「愛」という言葉には色々な意味が含まれているものと思います。

自己愛や動物、物などに対する愛もありますが、ここでは慈愛、敬慕、思いやりといった自分以外の相手に対する「思いやりの心」という意味が大切だと思います。とくに医療人としては患者という弱者に対する思いやりの心が極めて大切であります。

ウイキペディアには、日本語の「愛」は、相手をいとおしい、

かわいいと思う気持ち、守りたい思いを抱くさまと説明されています。まさにこの相手をいとおしいと思い、守りたい思う心こそ医療人の根本としての姿勢と言えるでしょう。さらに相手を思いやる気持ちは、思いやる自分自身の心のあり方に関わっていることにも気がきます。

■汝・自らを知れ

医学、歯学、医療系の大学では共通して愛や心といったギリシャ哲学の精神を建学の精神に組み入れる傾向にあります。それは心(魂)の第1発見者がギリシャ哲学の父ソクラテスだからということに由来するのでしょう。

「医を学ばんと欲すれば、先ず心を学べし、心を学ばんと欲すれば、先ず自己を学べし」。これは私が歯学部の学生だったころに神奈川歯科大学の口腔外科学の教授であった布

施貞夫先生の言葉です。ギリシャ哲学の父ソクラテスは「汝・自らを知れ」という言葉に啓示されて人間の心(魂)を発見し、人間の心のあり方の問題に取り組み、倫理学の基礎を作りました。ソクラテスが人類の教師と言われる所以です。

湘南短期大学の建学の精神である「愛」の実践のためには、まず自らの生き方、生きている価値を考えることにあるのではないのでしょうか。自分の生きている価値がわかれば病人の本当の姿・立場がわかり、またそうすれば医療にかかわる専門職の本質がわかり、巧まずして、「愛」の医療の姿になるということの意味しているものと考えます。

東日本大震災の影響が長引くなか、被災地や被災者を含め日本の復興にむけて、いま最も求められているものは「愛」ではないのでしょうか。(新任のご挨拶にかえて)

バランスのとれた 新しい教育プロセスの開発



神奈川歯科大学 副学長
平田幸夫

平成23年4月1日に、副学長を拝命しました社会歯科学講座歯科医療社会学分野の平田幸夫です。また、教育開発部長を併任することになり、佐藤貞雄学長の下で大学の皆様とともに与えられた職責を果たすよう努力をしておりますので宜しくお願ひ致します。

現在、歯科医療界を取り巻く環境は厳しく大学の運営にまで影響を与える状況にあります。そのような中、将来への活路となる医学・歯学教育につきましては、平成13年に、社会からの要請に基づき今までにない大改革がスタートし、昨年で10年が経過しました。

この間、各大学では足並みを揃えたかの様に新しい教育用語に象徴される教育手法ならびに教育技法を取り入れ、「教員主導型教育から目標達成型教育」や「問題発見・解決型教育」へと変革の努力がなされてきました。そして、この教育改革でもう一つ求められた内容は、医学的知識ならびに医療技術向上への偏重教育を避け、わが国の医療制度の下で国民が求める望ましい医療人の育成、具体的に

は①患者尊重の医療を実践できる、②優れたコミュニケーション能力を持った、③高い倫理観を持ち幅広い社会性を備えた質の高い臨床能力のある医療人の育成という点でありました。

そのことは、国家試験の出題基準ならびに改定モデルコアカリキュラムにも明確に反映されておりますが、必ずしも整理された教育がなされている状況ではありません。そのような状況に鑑みて教育開発部としては、学長が掲げる本学の新しい時代の歯

学教育構想の中で、質の高い臨床能力はもちろんのこと、十分な社会性と高い倫理観を備えた歯科医師の育成を目指したバランスのとれた新しい教育プロセスを開発することが主な役割であると考えております。

新しい時代に向けた本学の歯学教育の開発を達成させるためには、本学共同体の素である皆様一人ひとりの信頼関係に基づいた結束力が必要であります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



副学長就任に あたって



神奈川歯科大学 副学長
石井信之

夜明け前から歯科医院の玄関先に並び5時間待ちの5分診療だった昭和40～50年頃、あらゆる虫歯の痛みを体験した私は痛みを解放してくれた歯科医師に感謝と憧憬の念を抱きつつ昭和52年に神奈川歯科大学に入学した。

当時の街角は、山口百恵の『秋桜』、キャンディーズの『やさしい悪魔』がヒットし、『宇宙戦艦ヤマト』がイスクンダラへ発進した。TVでは黒人奴隷問題を

真正面から描いた連続ドラマ『ルーツ』や『アメリカ横断ウルトラクイズ』に夢中になった年で、エルビス・プレスリーが他界し、巨人の王選手が756号ホームランの世界記録を更新し国民栄誉賞を受賞したことを昨日のように思い出す。

当時、神奈川歯科大学の新入生は定員の120名を大きく超えて220名を超える新入生が狭い教室にひしめき合っていた。国民が満足な歯科治療を受けられず、「虫歯の洪水」として社会問題化された時代であった。歯科大学は一人でも多くの歯科医師を教育し、国民の健康増進のため社会貢献することが崇高な使命であった。

神奈川歯科大学には田中角栄の所得倍増計画のおかげで、私を含め教員や公務員家庭の子弟が同級生に多数在籍していた。バブル前の日本経済はアメリカに次いでGDP世界第2位で10年後にバブルを迎える胎

動を感じながら、まさに高度成長の真ただ中であつた。卒業後、約30年経過した平成23年、歯科医の数は5万人から10万人に倍増した。

■国民の期待を感じ

国民の健康増進に優秀な歯科医師を輩出してきた国内の歯科大学は、今大きな岐路に立たされている。平成15年を境に歯科大学の定員割れが始まり、平成19年から歯科大学は定員数削減が開始された。平成23年に私立歯科大学17学部中11学部が定員を割った。本学も平成21年から定員を充足できなくなった。

現在、国民歯科医療を担う優秀な人材を確保する状況が厳しくなると同時に、神奈川歯科大学自身の社会に対する使命が国民に問われている気がします。

本年4月より、副学長を拝命致しました。本学を卒業し、社

会貢献に活躍している6,269名の同胞は日本の歯科医療において大きな一翼を担っています。また、現在の歯科医療は疾患からの健康回復にとどまらず、欧米を中心とした疾患予防や高いQOLに対応できる高度歯科医療が求められています。欧米や隣国の韓国では、現在も歯科医師に対する崇高なイメージが高く、高校生の憧れる職業の上位に位置されています。

本学は理事長、学長の指導の下、全教員と全職員の努力によって僅か一年で収支バランス均衡に一筋の光を見出しました。全教員と全職員の努力は必ず報われることを確信しています。本学入学者確保のために最善を尽くし、一刻も早く旧設6歯科大学に追いつき、社会が必要とする神奈川歯科大学の明るい未来と優秀な歯科医師養成のために微力ですが務めさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

湘南短期大学の将来



湘南短期大学 副学長
荒川浩久

4月から副学長として多くの課題に取り組み始めたところです。法人職員はもとより、同窓会や保護者の方々と一緒に進んでいきたいと考えています。

さて、現在の最大の課題は歯科衛生学科受験者の極端な減少です。その要因は18歳人口の減少や歯科の不人気だけで説明することはできません。本学の

前身は1910年の東京女子歯科医学講習所に遡りますが、日本女子衛生短期大学として横須賀で歯科衛生士の養成を始めたのは1963年のことでした。その当時からしばらくは、偏差値の高い多くの受験生が全国から集まり活気に満ち溢れていました。その後、国文学科や商経学科を併設し男女共学としたため、湘南短期大学に改称され現在に至っています。湘南短期大学という名称からは、現在の歯科衛生士と看護師を養成する医療系の短期大学であることを想像することはできません。必ずしも適切な名称とはいえないようです。

■受験生増への改善

おかげさまで、看護学科の受験生は選抜できるほどに確保できていますし、国家試験の合格率も94.4%と全国平均を上回り

ました。歯科衛生学科も国家試験合格率は100%を続けていますが、いかんせん受験生が定員に満たないのが現状です、その要因は多くあり、それらの一つひとつに対策や改善策を考え、後手に回ることなく平成24年度の入学試験に向けて実行しています。

大きくは、学内のことと学外の歯科医師と歯科衛生士と一般の方への本学のアピールです。

学内に関する事項は、学生主体に考えた教育改革、マナーの改善、施設などの充実です。学外へは歯科衛生士の職業人としての魅力のアピール、本学を卒業した歯科衛生士が身につけているスキルのアピールです。無駄に費やす時間はありません。皆さんの協力を得ながら、一丸となって取り組みたいと考えております。どうかよろしく願いいたします。



6月、薄紫に咲き誇る構内のジャカランタ（昨年6月20日撮影）

新任のご挨拶



神奈川歯科大学大学院 研究科長
李 昌一

大学院研究科長就任に際し、ご挨拶させていただきます。昨年より前小野塚研究科長を中心として「大学院大学への移行」への諸改革がスタートしました。

就任にあたって、まずこの改革を引き継ぐ任の重さを感じております。また、昨年は大学基準協会による認証実地調査があり、平成21年度に報告したこれまでの大学院の問題点の数々が指摘されましたが、改革を進

められたことで、無事に認証を受けることができました。さらに、昨年度はカリキュラムの改変、規程の整備、学生募集などが進められ、新入生が33名入学するという嬉しい結果となり、前科長、榎木運営委員長、寺中副運営委員長をはじめ、大学院教授・教員、事務職員のご尽力に改めて御礼申し上げます。

■大学院の主役は…

このような改革の流れを止めることなく発展させるためにまず私が今後の大学院改革で進めたいのが「大学院の主役は大学院生である」ということを大学院の教職員が明確に認識することであり、これは学部教育でも同様であると思われ、学び、研究する大学院生である学生が満足するカリキュラムと研究施設あるいは事務システムを構築することが肝要であると思います。これには、大

学院生側から評価可能な大学院のカリキュラムやシステムを作り上げ、大学院生の要望をフィードバックしていく組織を目指したいと思います。そのためには従来の歯科大学でみられた学部講座中心の徒弟的な大学院制度・組織ではなく、大学院生がポジティブに取り組めるこれまでにない歯科医療系大学院を構築する必要があります。この根底に必要となるのはこれからの大学院生が求めている医療、臨床につながる研究の実践、いわゆる「トランスレーショナルリサーチ」であります。これを進めれば大学院教育、研究の成果としての先端歯科医療のシーズが生まれてくることにもなります。

■カリキュラム改定へ

すでに、臨床志向の歯科医師である大学院生には「高度先進臨床歯科医療養成コース」、歯

科医師以外のコメディカル、コデンタルである医療従事者大学院生には「高度診療協力専門職養成コース」が今年度から創設され、これからの大学院生が望む流れに沿ったカリキュラム改定を今後充実させる予定です。

大学院生の終着点である学位習得は、グローバルに活躍する切符を手に入れることでもあります。国内外問わず研究を社会にフィードバックし、研究と臨床を通じて患者様だけではなく、地域、企業に連携・還元することが可能な人材を排出できる大学院にできればと考えています。しかし、改革はまだ途上であり、課題は山積しております。その一つ一つの山を共に超えていくために、大学院教授・教員、事務員、現役大学院生が三位一体となって今後とも大学院改革へのご協力を受け賜りますことを最後にお願ひし、ご挨拶とさせていただきます。

長崎国際大学と「連携に関する協定」締結

平成23年4月20日、本学と長崎国際大学は双方の教育・学術交流の促進・連携を図るため、協定を締結しました。今後は相互尊重・友好協力の原則のもとで、主に長崎国際大薬学部との間で教職員や学生との交流、学術情報・研究の交換

などについての実施と発展に努力し、将来的には同大健康管理学部にも連携の幅を広げる予定です。

※長崎国際大学（薬学部・健康管理学部・人間社会学部）
所在地：長崎県佐世保市



写真：協定を交わした佐藤学長（前列左から2番目）と潮谷義子長崎国際大学学長（同3番目）

東日本大震災被災者支援プロジェクト

この度の未曾有の災害により被災されました皆様方におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

本学では震災発生直後から可能な範囲で人的・物的支援を行ってまいりましたが、この度「東日本大震災被災者支援プロジェクト」を立ち上げました。

プロジェクトの概要

1. 目的

地元同窓会との連携による被災地での歯科医療の提供、及び地元歯科医院の復興支援

2. 活動方針

①他の医療チームが

入っていない過疎地での活動

②地元の医療体制が復旧するまでの繋ぎの歯科医療

③応急処置と予防措置を中心とする急性期医療

④診療報酬の地元同窓会（又は地元歯科医師会）への全額還元

3. プロジェクトチーム

①情報部：佐藤貞雄（学長）、平田幸夫（副学長）、小林優（病院長）、菅谷彰（副病院長）、伊野智（副病院長）、平田宗善(KDC-SAS)、河野伸二郎(KDC-SAS)

②調達部：6名

③診療部：各科専門スタッフによるチーム編成（1チーム6名×3チーム）

④後方支援部：13名

4. 派遣開始時期

7月初旬の見通し（準備が整い次第、可及的早期に派遣）

5. 派遣方法

3チーム交代で（1チーム1週間程度）、年数回（状況が許す限り）

なお、7月からの本格始動に先立ち、現地の実情とニーズを把握するため、5月2日から5日まで気仙沼市周辺にて、歯科医師3名の先遣隊による診療を

兼ねた現地視察（情報収集）を実施しました。またKDC-SAS（神奈川歯科大学・東南アジア支援団）も、4月29日から5月1日にかけて歯科医師2名・技工士1名を派遣し、陸前高田市にて診療及び技工器材の寄贈、大船渡市での視察を実施しております。

今回の視察報告及び今後の活動状況につきましては、継続してお知らせいたします。



東日本大震災の義援金募金に湘南短大生立ち上がる

3月11日（金）に発生した東日本大震災による、被災地に対し、様々な支援の活動が行われています。

湘南短期大学の学生たちも立ち上がっています。

3月15日（火）京急久里浜、三浦海岸駅前、17日（木）18日（金）京急横須賀中央駅付近では、看護学科1年生の中村友美さんが出身校の横須賀総合

高校の先輩たちと（横須賀経済新聞掲載 <http://yokosuka.keizai.biz/headline/526/>）、3月17日（木）には汐入ダイエー前で、看護学科2年生の金子ひかるさん、松村里恵さん、高橋詩穂さん、江藤秋乃さん、江頭麻希さんで募金活動を行い、多くの激励の声とともに、被災地に向けての義援金を集めました。

小学生が財布から、あり金全

部を入れていたり、万札を入れて下さる方とか、横須賀市唯一の短大であるという存在感を市民にアピールし、善意を共有化していました。松村さんたちは、18日（金）午前中の歯学部

の卒業式に列席の方々の帰路にも、校門外でお祝いの言葉と同時に募金を呼びかけていました。こうした短大の看護学科生の活動にも、短大の建学の精神「愛」の実践を強く感じました。



汐入の「ショッピングプラザ横須賀」前に立つ看護学科の金子、松村、高橋、江藤、江頭さんたち

国際癌免疫治療学会で 最優秀演題賞を受賞

口腔難治疾患研究センター 特任教授 畑 隆一郎

抗がん剤の副作用が問題となっているなかで、生体本来の機能である免疫力を癌治療に利用する方法が注目を集めてきている。このような機運のなかで、世界の癌の免疫治療に関心のある基礎、臨床の研究者が一堂に会して討議をする会として、第2回国際癌免疫治療学会がハンガリーの首都ブダペストで2011年5

月2日から5日に開催された。

会場はドナウ川河畔にあるブダペストアートホテルで、ドナウ川を挟んで対岸に国会議事堂を望み、ホテルの裏側の丘にはマーチャーシュ聖堂、王宮が聳えているというまさに世界遺産の中心にあった。

朝8時からよる6時まで昼

食の1時間と午前午後のコーヒータイム以外はぎっしりとスケジュールが組まれており、講演65演題、ポスター95演題が発表された。

口腔難治疾患研究センターでは文部科学省の「ハイテクリサーチセンタープロジェクト」の指定を受けて、口腔癌の分子標的療法の研究を行ってきたが、今回は我々が作製したケモカインBRACを過剰に発現するトランスジェニックマウスが、生体内のナチュラルキラー細胞を活性化して種々の癌の増殖と転移を

抑制する研究結果を発表したところ、「Outstanding Abstract and Selected Oral Presentation Award」(最優秀演題賞)に選ばれ、賞状とともに賞牌、賞金が授与された。

研究の進行によってまったく新しい研究分野に進出してきたが、このような賞を頂けたことは「横須賀から世界へ情報の発信を」をモットーに研究を行ってきたものとしてばかりでなく、本研究を進めてきた多くの共同研究者の成果が認められた事に感謝をしたい。

平成22年度特待生表彰式

5月24日(火)、前年度の各学年成績優秀者15名が特待生として表彰され、所用のため不在の佐藤学長に代わって、石井副学長と菅谷教学部長から一人ひとりに賞状が手渡されました。

特待生は、年間成績が特に優秀であった者に対し奨学金として次年度の授業料が減額される制度で、学生にとって勉学の大きな励みになっています。今回の受賞者の中には、特待生を目標として頑張り、毎年のように受賞している学生さんも何人かいます。

平成22年度特待生

学年	番号	氏名
2	60	相馬 聡宏
2	88	藤田 正樹
2	107	吉田 成緒
3	4	石井 滋
3	46	杉山 聡美
3	63	西村 隆克
4	22	応藤 光浩
4	91	平岡 優迪
4	105	村田 陽太郎
5	46	佐藤 生野
5	96	藤巻 龍治
5	111	山田 峻太郎
6	5	穴澤 藍
6	16	上田 佑香
6	124	山下 ひとみ



神奈川歯科大学 オープンキャンパス 2011 日程

実施日	開催時間	備考
2011年 6月 19日 (日)	13:00 ~ 16:00	短大歯科衛生学科との合同模擬実習、説明他
7月 17日 (日)	13:00 ~ 16:00	大学説明、模擬実習、個別相談
8月 7日 (日)	13:00 ~ 16:00	短大歯科衛生学科との合同模擬実習、説明他
9月 11日 (日)	13:00 ~ 16:00	大学説明、模擬実習、個別相談
10月 8日 (土)	12:00 ~ 15:00	稲岡祭での進学相談会
10月 9日 (日)	12:00 ~ 15:00	〃
11月 27日 (日)	13:30 ~ 16:00	大学説明、模擬実習、個別相談
詳細はホームページをご覧ください。		

湘南短期大学 オープンキャンパス 2011 日程

実施日	開催時間	備考
2011年 6月 19日 (日)	13:00 ~ 16:00	歯科衛生は歯学部と合同授業、AO入試対策他
7月 16日 (土)	14:00 ~ 16:00	歯科衛生学科のみ開催(横浜研修センター)
7月 17日 (日)	13:00 ~ 16:00	看護学科のみ開催 AO入試対策、保護者説明会
7月 31日 (日)	13:00 ~ 16:00	AO入試対策
8月 7日 (日)	13:00 ~ 16:00	歯科衛生は歯学部と合同授業、AO入試対策他
8月 25日 (木)	13:00 ~ 16:00	AO入試対策
9月 11日 (日)	13:00 ~ 16:00	推薦入試対策、保護者説明会
10月 8日 (土)	12:00 ~ 15:00	稲岡祭での進学相談会
10月 9日 (日)	12:00 ~ 15:00	稲岡祭での進学相談会
11月 6日 (日)	13:30 ~ 16:00	
12月 4日 (日)	13:30 ~ 16:00	
2012年 2月 12日 (日)	13:30 ~ 16:00	
大学・学科・入試説明、体験授業、学内案内、個別相談、先輩と話そう! 他を実施します。 詳細はホームページをご覧ください。		